

ごあいさつ

本日は第9回神奈川国際芸術フェスティバル、コンテンポラリー・アーツ・シリーズ、アル・ゾイド「外ロボリス」上映コンサートへお越しいただきありがとうございます。このフェスティバルも今年で9年目、そして来年には10周年を迎えます。これら6つとえに会場へ足を運んでくださる皆様方のご支援あってのこと、厚く御礼申し上げます。

さて、本日も聴きいただくアル・ゾイドは、今から6年前に当フェスティバルの招聘によって初来日し、神奈川県川崎ホール前広場で素晴らしい演奏を聞かせてくれた音楽グループです。彼らはヴィオリンやチェロといったアコースティック楽器の音とコンピューター・サウンドを融合させ、1920年代のサイレント映画にオリジナル曲をつけて演奏するユニークな活動を世界各地で展開しています。前回の来日公演では、ライブ表現「吸魂鬼ノスフェルト」や「ファウスト」をお届けしました。今回の作品は、映画史に名を残すフリッツ・ラングの「外ロボリス」です。デジタル再編集で輝きを増した映像と共に、クラシックからコンテポラリー・ミュージックまで幅広い音楽性を持つアル・ゾイドの、精緻でいてダイナミックなライブ演奏を心ゆくまでお楽しみください。ご来場くださった皆様には、素晴らしい時間をご提供できれば幸いです。

最後に、この公演にご協力いただいた関係者の皆様には、深く感謝申し上げます。

(財)神奈川芸術文化財団 芸術総監督

一柳 慧 Toshi Kbiyanagi



アル・ゾイド Art Zoyd

1969年、フランスで結成。室内楽の精緻さとロックのダイナミズムを融合させたチェンバー・ロック系のバンドとして活動を始める。管楽器、弦楽器、アコースティック、エレクティック問わず、多数の楽器群を自在に操る演奏力と、クラシックから現代音楽、ロック、ノイズ・ミュージックまでを吸収した幅広い音楽性によって他に類のない濃厚なサウンドを生み出す。結成当時のオリジナルメンバーはもはやいないが、常に更新される洗練的な音楽性によって、アヴァンギャルド・ロック界の最高峰に君臨し続けている。

1970年代から80年代にかけてのアル・ゾイドは、複雑なリズムと楽曲構成、チェロやヴィオリンなど室内楽の楽器を用いたサウンドにより、いわゆるヨーロッパ風のサウンドと認識されていた。しかし、彼らの紡ぎ出すサウンドは常に映像的であるという点で、他のバンドとは一線を画している。さらなる無数のカットから成り立つ映画のように、彼らの楽曲は無数のフレーズやテーマの展開から成り立っている。

1980年代に入ってからでは、ローラン・ブティのノレエ作品「天国と地獄の結婚」への楽曲提供を機に、他ジャンルとのコラボレーションに積極的に取り組み始める。ローファン・ブティと同様ダンスや演劇作品への楽曲提供は継続的に行われ、やがて彼らの音楽活動の一環となる。その中にはコンテ

ンポラリーダンスのキャロル・アーメーラ、日本を代表するパフォーマンスグループ「ダムタイプ」のメンバーとのプロジェクトも含まれている。

90年代初頭からは、20年代のサイレントムービーにオリジナル音楽を書き下ろし、映像の上映とともにライブ演奏を行うプロジェクトを始める。これまでに、F.W.ムルナの監督によるドイツ映画全期の名作「吸魂鬼ノスフェルト」、「ファウスト」、そしてB.クラウゼン監督による北極幻想映画「Haxan(魔女)」などを手がけている。1996年に行われた初来日公演では、神奈川県川崎ホール外壁に特設された「巨大スクリーン」に「吸魂鬼ノスフェルト」や「ファウスト」を投影し、初めて日本のファンの中でライブパフォーマンスを披露する。

2000年にはアルバム「uBIQUe」リリースに伴い、50名近いオーケストラとともにフランスでライブを行う。それから一年経った2001年、アル・ゾイドがコラボレーションを切望しつづけていた「メトロポリス」が、イギリスでついに初演される。フィルムは2001年にドイツでデジタル再編集された最終完全版が使用された。パーク・カシオンを中心に据えた新編成アル・ゾイドのサウンドは、「外ロボリス」の映像美に新鮮かつ強烈な臨場感を与え、各地の公演でも絶大な支持を受ける。

現在アル・ゾイドのメンバーは16人。それぞれにソロ活動やリーダーバンドを持ち、個性的なメンバーによって生み出される幅広い音楽性は広がりに続けている。

イントロダクション

日頃より(財)神奈川芸術文化財団コンテンポラリー・アーツ・シリーズをご支援いただき誠にありがとうございます。1994年にスタートした当シリーズは、世界の現代アートシーンの先導で生まれる冒険精神溢れる表現、特にダンス/パフォーマンスを中心とした舞台作品や、若いアーティストたちが新しい表現の冒険にチャレンジできる場をプロデュースしてきました。

本日もご覧いただくのはアル・ゾイド「外ロボリス」上映コンサート。1969年にチェンバー系プロGRESS・ロックバンドとしてフランスで結成されたアル・ゾイドですが、80年代に入ってからローラン・ブティを初とする現代ダンス作品やビデオ作品とのコラボレーションを展開、その活動の幅を大きく広げてゆきました。90年代には「ファウスト」「吸魂鬼ノスフェルト」といったドイツ表現主義サイレント映画を素材に、オリジナル音楽を作曲し演奏するプロジェクトに挑戦してきました。本日の「外ロボリス」は、2001年に発表された彼らの最新作です。

一方映画「外ロボリス」は、1927年にフリッツ・ラング監督が挑戦した当時の超大作。SF映画のハイパブルとも呼ばれ、アル・ゾイドが以前から作曲を切望してきたものでもあります。1927年のプレミアから80年近くの時を経て、アル・ゾイドの2001年のサウンドが、1927年の「外ロボリス」の映像に新たな色合いや質感を与えイメージを変装させていきます。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

(財)神奈川芸術文化財団
コンテンポラリー・アーツ・シリーズプロデューサー

佐藤 まいみ Maimi Sato



メンバー

ジェラルド・ウルベット Gérard Hourbette

アル・ゾイド創設期のメンバー。ヴィオリン、ピアノ、オルガン、パーカッション等のクラシックの楽器をベースに、常に新しいサウンド/リズムを駆使した楽曲を生み出す。ダンスや演劇の音楽、サウンド・インスタレーションと活動は多岐に渡る。

パトリシア・ダリオ Patricia Dario

作曲家。クラシック/ジャズ/ヒップホップ。80年代前半まで、アル・ゾイドの主要メンバーとして作曲と演奏を手掛けている。ネーデルラントのダンスとフェスティバルの活動や、映像や舞台の音楽の他、ソロアルバムも多数。

カスパー・テーパーリッツ Kasper T. Toepitz

作曲家。ヘンツェル、室内楽からオーケストラ。現代音楽、ノイズ・ミュージックと幅広いジャンルに渡る作曲で多くの受賞歴を持つ。ダンスとのコラボレーションも多数。97年に東京、メルボルンや福岡で2回公演。

ゆかり・ベルトッキ=浜田 Yukari Bertocchi-Hamada

日本の国立音楽専攻でクラシック/ジャズ/ヒップホップに精通。ヒップホップとして「Laborinus」、「SIC」、「Salome Tro」などの国内アルバムとして活動する。多くの演奏家と共同、日本の海外アンサンブルや音楽出版プロジェクト。

ディディエ・カザミチヤナ Didier Casamitjana

音楽家・ダンサー。90年代マシソン・カゲル、ジョージンなどの作曲した音楽をパーカッションで探求することを目的とするグループ「Paban Tro」を結成。サンサー、カンパニー「Wooshing Machine」でベルギーで活動。

ローランス・シャヴ Laurence Chave

ヴァイオリン、リュート、チェロの国立地方音楽院でパーカッションを専攻。アカト現代音楽センターにおいて、オプティエンアン、武蔵野、マヌス・ヴィンツェル、フィリップ・マズリに師事。98年「Sue Tempore」を結成。

カスパー・テーパーリッツは今回のツアーには参加していません。ジェラルド・ウルベットは音楽・音楽監督として来日のため公演には参加しません。ご了承ください。

本日の「外ロボリス」は、1927年にフリッツ・ラング監督が挑戦した当時の超大作。SF映画のハイパブルとも呼ばれ、アル・ゾイドが以前から作曲を切望してきたものでもあります。1927年のプレミアから80年近くの時を経て、アル・ゾイドの2001年のサウンドが、1927年の「外ロボリス」の映像に新たな色合いや質感を与えイメージを変装させていきます。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。